

その他

看護学科就職対策委員会の在学生に対する 就職支援活動報告

Report of Employment Support Committee Activities for Students of Nursing Department

藤井美穂子 蓮井貴子 平田美和 川原理香 伊藤美千代
岡田弘美 大家正虎 井上智之 小澤知子

Mihoko FUJII, Takako HASUI, Miwa HIRATA, Rika KAWAHARA, Michiyo ITO,
Hiromi OKADA, Masatora OHIE, Tomoyuki INOUE, Tomoko OZAWA



東京医療保健大学
TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY

〈そ の 他〉

看護学科就職対策委員会の在学生に対する就職支援活動報告

Report of Employment Support Committee Activities for Students of Nursing Department

藤井美穂子¹ 蓮井貴子¹ 平田美和¹ 川原理香¹ 伊藤美千代¹ 岡田弘美¹
大家正虎² 井上智之² 小澤知子¹

1 東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科

2 東京医療保健大学 学生支援センター

Mihoko FUJII¹, Takako HASUI¹, Miwa HIRATA¹, Rika KAWAHARA¹, Michiyo ITO¹, Hiromi OKADA¹,
Masatora OHIE², Tomoyuki INOUE², Tomoko OZAWA¹,

1 Division of Nursing, Faculty of Healthcare, Tokyo Healthcare University

2 Student Support Center, Tokyo Healthcare University

要 旨： 本学看護学科就職対策委員会は、平成20年度に開始した第1期生輩出のための就職対策プロジェクトを前身として平成23年度に設置された。現在、大学の学生支援センターと協働で就職支援対策を行っている。開学11年目の今年度までに卒業生およそ850名が多くの施設に就職した。主な就職支援活動としては、学生支援センターとの協働による就職ガイダンス及び実習病院合同説明会の開催、個別相談や推薦制度支援、学生支援センター主催の講座活用支援である。

平成27年度及び平成28年度に4年生を対象とした就職支援活動に関するアンケートを行った。その結果をもとに在学生の就職活動の動向や就職対策委員会の支援について評価し今後の活動について検討を行った。

キーワード： 看護学科就職対策委員会、就職支援

Keywords： Nursing Department of employment Committee, Employment Support

I. はじめに

平成26年の病院における看護職需要状況調査によると、看護職の離職率は11%と前年度より減少しているが、新卒看護職員の離職率は平成24年より上昇し、現在は横ばいの7.5%であり、依然として看護職の離職率は改善されていない。また、本学の学生達が多く就職する東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県等の大都市部ではいずれも離職率が高く¹⁾、学生が自分のライフサイクルに応じた就職先を選択できるようにサポートしていく必要がある。

本学看護学科は平成17年度に開学し、第1期卒業生の輩出に向け、平成20年度に就職対策プロジェクトを前身とし、平成23年度に大学の学生支援センターと協

働する看護学科就職対策委員会（以下：就職対策委員会）を独自に設置した。開学11年目の今年度までに卒業生の約850名が多くの施設へ就職した。また、この10年間で在学生の就職施設の志向性や活動の様相も変化している。そこで、今回は、在学生への就職支援に焦点をあて、今後の委員会活動を検討する。

II. 就職対策委員会の活動

就職対策委員会の方針は、学生が学業との両立を図りながら自ら就職活動を行い、自身が望む就職が可能となるように支援することであり、特に実習病院への就職を促進することを重視している。これは、本学看護学科の理念でもある「人と生活を大切にする」「現場

と協働する」「新しい価値を創造する」を基盤に、学生の自律、自己決定を支えることと同時に、大学と現場の協働により、互いに強い組織をめざすことから成り立つ。特に実習病院へ卒業生が就職することは、大学と施設のつながりをより一層高めることになり、卒業生の力を借りることで実習教育の質の向上、および新しい価値の創造に寄与することになる。

就職対策委員会の主な活動は、在学生への支援と卒業生及び入学希望者に対する支援である。在学生への支援は、就職ガイダンス、就職説明会、就職個別相談、推薦制度支援、学生支援センター主催の講座活用支援であり、学生支援センターと連携を図りながら実施している。卒業生及び入学希望者に対する支援は、大学祭やオープンキャンパスでの活動紹介、THCUトピックス等での広報活動、卒業生交流会の企画・運営等である。

Ⅲ. 在学生に対する就職支援体制の実際と学生のアンケート結果

1. アンケート調査の概要

平成27年度及び平成28年度に4年生を対象に就職活動の現状把握及び就職対策委員会の就職支援活動の活用状況を評価することを目的としてアンケート調査を行った。

アンケート内容は、4年次の就職ガイダンスの時期や内容が適切であったか、個別相談や個別の教員への相談の有無である。また、就職活動の現状に関しては、インターンシップの参加の有無や参加時期、就職内定状況及び就職先の選定理由である。

平成27年度は94名（回収率95.9%）、平成28年度は84名（回収率79%）から回答が得られた。

尚、アンケート調査に際しては個人の就職活動の確認をするものではないこと、個人が特定されたり個人情報公表されることがないことを書面で説明した。さらにアンケートへの協力は任意とした。

2. 各就職支援活動の実際とアンケート結果

1) 就職ガイダンス

就職ガイダンスは、学生支援センターと共同開催で、進路・就職総合ガイダンスⅠ（3年生4月）、進路・就職総合ガイダンスⅡ（3年生12～1月）、進路・就職総合ガイダンスⅢ（4年生4月）の年3回を実施している。ガイダンス内容は表1に示した。

平成27年度および平成28年度学生アンケート結果において、ともに9割以上の学生が、ガイダンス開催時期および内容について「適切であった」と評価

表1 就職ガイダンス内容

ガイダンス名	開催時期	対象学生	ガイダンス内容
進路・就職総合ガイダンスⅠ	4月	3年生	就職活動ノートの配布、就職活動の心構え 学内の就職支援体制、就職支援講座の紹介 病院の選び方、 病院説明会やインターンシップの注意事項
進路・就職総合ガイダンスⅡ	12-1月	3年生	先輩の就職活動体験談 卒業生の就職状況、病院の選び方
進路・就職総合ガイダンスⅢ	4月	4年生	就職活動の心構え、就職活動スケジュール 就職活動時の事務手続き（提出書類等）

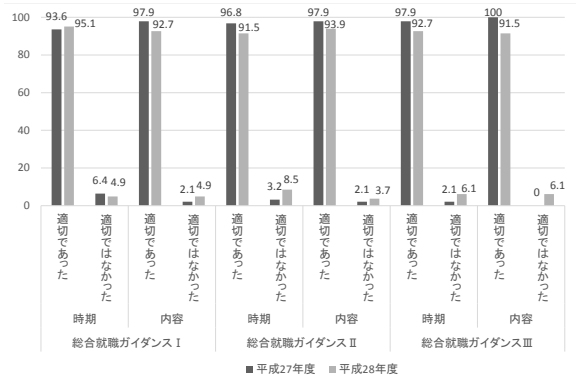


図1 進路・就職総合ガイダンス開催時期と内容 (%) (平成27年度 n=94 平成28年度 n=84)

している（図1）。

2) 就職説明会

(1) 就職病院合同説明会

学内における就職説明会は、実習病院を中心に毎年5月に学生支援センターと連携して開催している。4年生は全員参加とし、3年生は自由参加としているが、3年生は約3割の学生が参加している。参加病院毎にブースを設けて、学生が病院担当者から直接説明を受ける形式をとっている。また、実際に本学から就職した卒業生による相談会も開催し、在学生が直接、卒業生から就職した施設の内容を聞くことができる機会となっている。

(2) NTT東日本関東病院説明会

本学の主な実習病院であるNTT東日本関東病院の説明会は、昨年度まで3年生を対象として年1回2月に開催していた。近年の就職活動開始時期が早まっている現状を受けて、平成28年度より3年生を対象とした病院説明会を8月に開催した。病院説明会の内容は病院の概要、看護部の紹介、就職後の教育体制・福利厚生等であったが、3年生は領域実習開始前であったにもかかわらず、興味を持って説明を受けていた。

また、平成28年度はNTT東日本関東病院内部推薦制度説明会を平成29年2月に実施した。NTT東日本関東病院へ就職した卒業生5名が来校し、学生時代の就職活動の実際や現在の職場での勤務状

況の説明があった。

アンケート結果では、9割以上の学生が時期、内容ともに「適切であった」と評価している。

3) 個別相談会

就職対策委員による個別相談会は、4月（進路・就職総合ガイダンス開催後：3年生、4年生対象）、7月（4年生対象）、2月（NTT東日本関東病院説明会後：3年生対象）の年3回実施している。

平成28年度に4年生を対象に実施したアンケートの結果では、3年次または4年次に個別相談会を利用した学生は12名（14.6%）であった。個別相談会を利用した学生からは、「就職先のことを詳しく聞くことができた」（6名）、「相談に乗ってくれる機会があるだけでも安心する」（2名）、「希望する職種の話が聞けてよかった」（2名）等の意見があり、個別相談会を利用することで学生自身がどのように就職活動をすればよいのかを確認できる場となっている。一方、個別相談を利用しなかった学生は70名（85.4%）であり、その理由として、「特に必要なかった」（24名）、「すでに就職先が決まっていた」（10名）、「他の先生に相談した」（4名）、その他6名であり、「相談する内容が分からなかった」等であった。

また、看護学科就職対策支援の方針として、学生が希望すれば、全教員に就職支援を求めることができ、各教員は学生の求めに応じて就職の相談に応じることになっている。平成28年度学生アンケート結果では、教員へ個別に相談に行った学生は21名（25.6%）であり、4人に1人の学生が個別に教員へ相談している。教員への相談内容は、平成27年度、平成28年度ともに「病院選び」が最も多く（平成27年度、平成28年度とも10名）、その他、履歴書の書き方や面接の練習が多くなっている（図2）。内定辞退や自己推薦書の書き方を相談している学生もいた。相談しなかった理由として、「特に必要なかった」（22名）、「就職先がすでに決まっていた」（4名）、「個別相談

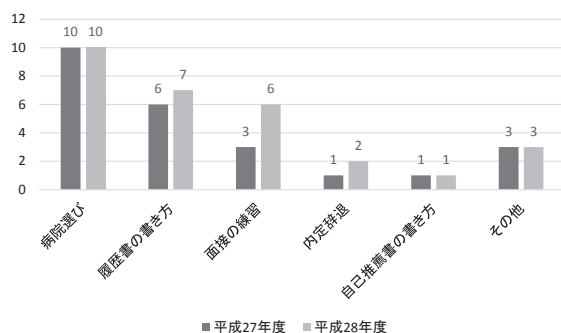


図2 教員への相談内容（複数回答）（平成27年度 n=26 平成28年度 n=21）

会で相談できた」（4名）、「教員以外に相談する人がいた」（3名）、その他の理由が2名であった。

IV. 学生の就職活動の実際

1. インターンシップ参加の有無および参加時期

インターンシップへは、平成28年度は73名（89.0%）の学生が参加していた。参加した施設数は、2施設が22名（26.8%）と最も多く、次いで1施設15名（18.3%）、3施設13名（15.8%）であった。一方、インターンシップへ参加しなかった学生は9名（11.0%）であり、その理由は実習病院への就職希望（2名）や進学希望（2名）であった。

インターンシップの参加時期は、平成27年度、平成28年度ともに3年生夏季までにおよそ50%近くの学生が参加しており、2年生夏季に参加している学生もいる（平成27年度：4.0%、平成28年度：4.1%）。学生が最も多くインターンシップへ参加した時期は、平成27年度、平成28年度ともに3年生夏季（平成27年度：26.0%、平成28年度：37.0%）と3年生春季（平成27年度：32.0%、平成28年度：35.6%）であった。また、平成27年度と平成28年度の参加時期に差があったのは2年生春季であり、平成28年度は1.4%であったのに対し、平成27年度は10.0%であった（図3）。

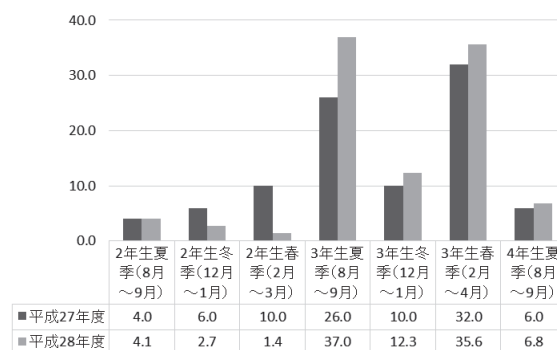


図3 インターンシップへの参加時期（%）（平成27年度 n=94 平成28年度 n=84）

2. 就職内定状況

就職の受験施設数については、平成27年度は1施設が74%と最も多かったが、平成28年度は1施設のみ受験者は22.4%と平成27年度に比較して割合が少なくなっている。一方、平成28年度は合わせて50%以上が2施設または3施設を受験している。平成27年度は5施設受験しているものは1.0%だったのに対し、平成28年度は11.9%が受験し、加えて、平成28年度は6施設以上受験している者もいた（図4）。

就職の内定施設数は1施設が平成27年度、平成28年度ともに最も多かった（図5）。

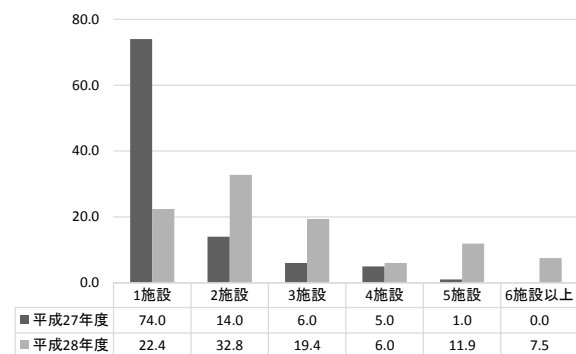


図4 就職の受験施設数（平成27年度 n=94 平成28年度 n=84）

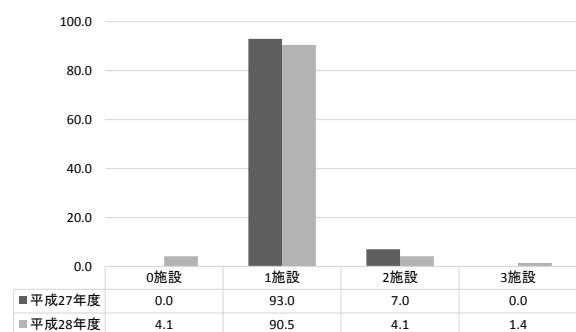


図5 就職内定施設数（%）（平成27年度 n=94 平成28年度 n=84）

就職先については、平成27年度、平成28年度ともに90%以上が第一希望の施設に就職が内定している（平成27年度：94%、平成28年度：90.5%）。

3. 就職する施設を決めた理由

就職する施設を決めた理由として最も多かったのは、「自分のやりたい分野の看護実践が可能」（16名）、次いで「福利厚生」（15名）、「実習病院」（14名）、「教育体制の充実」（14名）、「実家に近い」（12名）、「病院や看護師の雰囲気」（11名）、「インターシップへの参加」（10名）等であった（表2）。

表2 平成28年度4年生 就職施設を決めた理由（複数回答）n = 82

理由	人数
自分のやりたい分野の看護実践が可能	16名
福利厚生	15名
実習病院	14名
教育体制の充実	14名
実家に近い	12名
病院や看護師の雰囲気	11名
インターシップへの参加	10名
立地	6名
大学病院・急性期病院	4名
奨学金返済	1名
推薦制度	1名
教員の勧め	1名
趣味の継続	1名

V. 今後の在学生に対する就職支援活動

1. 就職ガイダンス

年3回実施した「進路・就職総合ガイダンスⅠⅡⅢ」に関しては、9割以上の学生が開催時期および内容について「適切であった」と評価しており、学生の就職活動において有用であったと判断される。

学生が最も多くインターシップへ参加する時期が3年生夏季および3年生春季であること新カリキュラム開始に伴う実習時期の変更等を考慮して、今後3年生および4年生対象の就職ガイダンスについても開催時期や内容について、引き続き学生支援センターと連携して検討していく必要がある。

また、平成27年度のアンケート調査の結果では、2年次から3年次夏季にかけて約5割の学生がインターシップに参加していた。このことから、平成28年度より新たに2年生を対象とした夏季休暇前のインターシップを実施している。今後も2年生を対象とした就職ガイダンスを実施していく予定である。

2. 就職説明会

学生が就職先を選択する理由は、教育や研修制度の整備及び職場の雰囲気や福利厚生等であることが報告されているが^{2) 3)}、本学看護学科の学生もキャリア支援の充実した施設を選択する傾向があった。しかし、少数ではあるがイメージで就職先を決定する学生もいることから、就職説明会と個別相談の両面から支援し、学生が将来像を捉えて適した病院を選択するような支援は相応しい。

また、近年、学生の就職活動開始時期が早まっていること、4年生5月の時期には就職希望施設がほぼ決定している現状から、毎年4年生を対象として5月に開催している就職病院合同説明会の開催時期を早める方向で現在検討している。

さらに、NTT東日本関東病院説明会についても、平成28年度より8月に実施したが、学生アンケート調査結果からも9割以上の学生が時期、内容ともに「適切であった」と評価していることから、次年度以降も同時期の開催を病院担当者と検討していく方向である。

3. 個別相談会

平成28年度学生アンケート調査結果では、個別相談会を利用した学生は2割弱であり、多くの学生は、就職対策委員会が主催する個別相談会を利用しなくても就職活動を遂行することができている。しかし、4年生の7月に開催する個別相談会に参加する学生も数名おり、この時期になっても就職先を自分で決定するこ

とができない学生も少なからずいた。

自己の適正や将来の目標を明確にできない学生の増加が指摘されている³⁾が、本学看護学科4年生の中にも自己に適した就職を選択できない学生がいることから個別支援を継続する必要がある。また、平成27年度と比較して平成28年度の就職受験施設数が増加している(図4)が、就職内定施設は1施設と変わらない(図5)。これは、複数受験しても内定を貰える施設が1施設であることや、就職試験の採用に対する不安が増加して複数受験をしていることが推測できる。今後、複数受験した学生に対してその理由を確認していく必要がある。また、今後の就職活動の動向を確認していくと共に、開催時期や対象学生について検討しながら、個別相談会を継続して開催していく予定である。

文献

- 1) 日本看護協会. 2014年 病院における看護職員需給状況調査, *News Release*2015 : 1-11.
- 2) 小口多美子, 種市ひろみ, 坂哉繁子. A看護系大学の第1期卒業生の職場選択要因の実態調査, *獨協医科大学看護学部紀要*2011 ; 5 (2) : 129-138.
- 3) 藤尾麻衣子, 大井千鶴, 松村ちづか, 鈴木聖子, 香春知永, 齋藤泰子. 卒業生動向調査からみた本学におけるキャリア形成支援の検討 第1報, *武蔵野大学看護学部紀要*2014 ; 8 : 69-75.